

# 令和4年度 学校評価のための保護者アンケート集計結果と分析

質問 No	質問内容	評価割合										昨年度 結果	結果	
		D	C	B	A	SA								
1	お子さんは、楽しく学校生活を送っていますか。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
2	お子さんは、あいさつをしていますか。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	A
3	お子さんは、学校のきまりを守っていますか。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
4	お子さんは、友達と仲良く過ごすことができますか。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
5	お子さんは、場に応じた言葉づかいをしていますか。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	A	B
6	お子さんは、宿題をきちんとするなど。家庭での学習習慣が身についていますか。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	A	A
7	お子さんは、読書を楽しんでいますか。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	C	C
8	お子さんは、次の日の学習準備ができていますか。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	B	B
9	お子さんは、早寝早起き・朝ご飯等、規則正しい生活ができていますか。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	B	B
10	学校は、家庭訪問・個人懇談（夏・冬）・教育相談などを通じて、児童理解の機会を設けている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
11	学校は、教育活動のねらいや活動の様子を伝えている。（ホームページ、脇小便り、PTA総会資料、学年通信など）	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	A
12	学校は、子どもたちのやる気や望ましい行動を引き出すよう、教育活動の工夫をしている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	A
13	学校行事（運動会・学習発表会など）は、子どもたちの成長の機会となるよう工夫されている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
14	学校は、授業や行事、体験的な活動を通して、子どもに人を大切にする意識を育てようとしている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	A
15	学校は、授業中や家庭学習にタブレット等の情報機器を積極的に活用している。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	新設	B
16	学校は、学校内外での体験や外部講師を招くなど、活動の工夫をしている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	B	B
17	学校は、感染症・地震・火災・台風・不審者などへの対応について、児童の指導、保護者への連絡ができています。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
18	学校は、交通安全に関する指導ができています。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	A	A
19	学校は、児童の安全面の配慮がなされている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	A	A
20	学校の施設・設備などの環境は、整っている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	B	B

## 2. アンケート結果の考察

- ①アンケート全般において昨年度までと同様の傾向である。児童の生活や学校の取り組みに対して、概ね肯定的な回答が寄せられているが、昨年度より数パーセント減少している項目がいくつか見られる。
- ②問2、5の「あいさつ」、「言葉づかい」の項目では、児童の望ましい姿を家庭と学校が共有し、歩調を合わせて取り組む必要性が感じられる。
- ③問7の児童の読書習慣に関する項目は、毎年の課題となっており、児童アンケートにおける同項目と比較しても低い評価となっている。美馬市図書館等、関係諸機関とも連携をとり施策を講じるなど、家庭での読書を推進したい。
- ④問15の「タブレット」については、リモート授業や参観日での活用を増やしたり、学年だより等でタブレットの活用状況について知らせたりすることで、理解を深める必要がある。

# 令和4年度 学校評価のための児童アンケート集計結果と分析

1, アンケート結果 ・評価規準:「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(90%以上:SA, 80~90%:A, 70~80%:B, 50~70%:C, 50%未満:D)

質問No.	質問内容	集計結果										昨年度結果	本年度結果	
		○	D	○	C	○	B	○	A	○	SA			○
1	学校は たのしい。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
2	あいさつが できている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	A	A
3	「ありがとう」「ごめんなさい」など、あったかことばがつかえている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
4	じぶんや友だちの いいところを 見つけている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	新設	A
5	友だちとなかよくできている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
6	じゅぎょう中は よくかんがえ はっぴょうしている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	B	B
7	本をよむことは たのしい。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	A
8	つぎの日の がくしゅうのじゅんびを 前の日にしている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	A	A
9	学習に(はなしあい・ドリル・じしゅべんきょう など)に すずんでとりくんでいる。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	A	A
10	じゅぎょう中 先生や友だちの はなしを よくきいている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
11	日記や ノートなどに じぶんの かんがえを 書くことが すきだ。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	B	C
12	ノートに めあてや ふりかえりなどを ていねいに 書いている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	A	B
13	じゅぎょう中や いえのべんきょうで タブレットをつかって がくしゅうするのは たのしい。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	新設	A
14	うんどう会や がくしゅうはっぴょう会などの ぎょうじは たのしい。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	A
15	友だちが こまっているとき こえをかけたたり たすけたりしている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
16	そうじの時間は 「むちゅうそうじ」が できている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	A	A
17	かかりや きゅうしょくとうばん にちちよくや いん会などのしごとを きちんとできている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
18	つくえの中や ロッカーなど みのまわりの せいりせいとんが できている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	A	A
19	やすみ時間に うんどうじょうで あそぶなど からだを うごかすのは たのしい。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	A	A
20	こうつうルールをまもり つうがくろを あんぜんにとりかえらなければならない。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	SA	SA
21	きゅうしょくは すききらいなく たべている。	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	A	A

## 2, アンケート結果の考察

- ①アンケート全般において肯定的な回答が多いが、「自分の考えを書く」「ていねいに書く」それぞれの項目で評価の低下が見られた。児童の表現力を高めるために、書いて伝える喜びを感じることができるような教材を選んだり、行事を計画したりする等、教育活動を工夫していくことが必要である。
- ②年間を通して児童があいさつを意識できるように、週の目標やあいさつ運動、ポジティブな行動支援を中核にした指導を充実させ、あいさつの意欲をさらに高めたい。
- ③大多数の児童は、学校生活を楽しんでいる様子が伺えるが、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」児童も若干名存在する。そういった児童に常に目を配り、必要な支援ができるよう情報共有を徹底し、居場所づくりに努めていく。